



増進型福祉セミナー2

増進型福祉の進め方

大阪府立大学

小野達也

本日のメニュー

1 増進型福祉の考え方 復習

増進型福祉の基本的な整理をします

2 増進型の進め方

増進型福祉の進め方について検討します

1


増進型福祉の 考え方

社会福祉が地域レベルまで降りてきた


①戦後 貧困問題 公的扶助 貨幣的ニーズ 国



②70年代 障害者問題 入所型福祉 非貨幣的ニーズ 府県



③80年代後半 高齢者問題 在宅福祉 市町村



④2000年代 さまざまな生活問題 地域福祉 小地域

2000年以降

地域福祉の 主流化 政策化

「地域共生社会」実現の全体像イメージ(たたき台)

“我が事”

我が事・丸ごとの地域づくり

- ・住民主体による地域課題の解決力強化・体制づくり
- ・市町村による包括的な相談支援体制の整備
- ・地域づくりの総合化・包括化(地域支援事業の一体的実施と財源の確保)
- ・地域福祉計画の充実、各種計画の総合化・包括化
等

“丸ごと”

サービス・専門人材の丸ごと化

- ・公的福祉サービスの総合化・包括化(基準該当サービスの改善、共生型の報酬・基準の整備)
- ・専門人材のキャリアパスの複線化(医療・福祉資格に共通の基礎課程の創設、資格所持による履修期間の短縮、複数資格間の単位認定の拡大)
等

- ・地域共生社会の理念の共有化
- ・国、自治体、社会福祉法人、住民の責務と行動

地域共生社会とは？

- 「地域共生社会」とは、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をとともに創っていく社会を目指すものである。

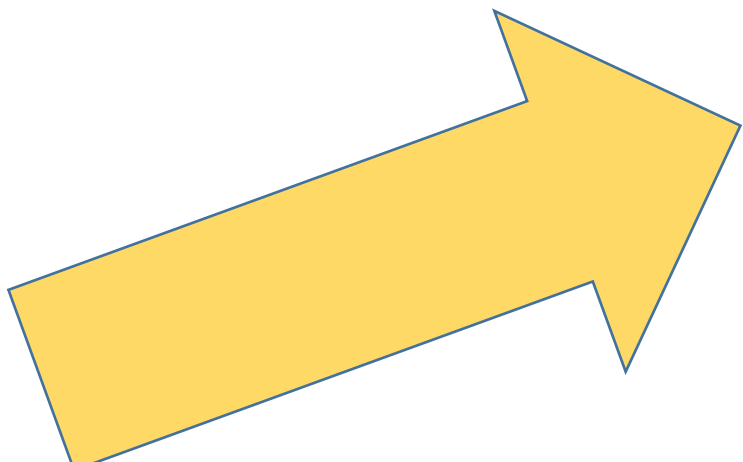
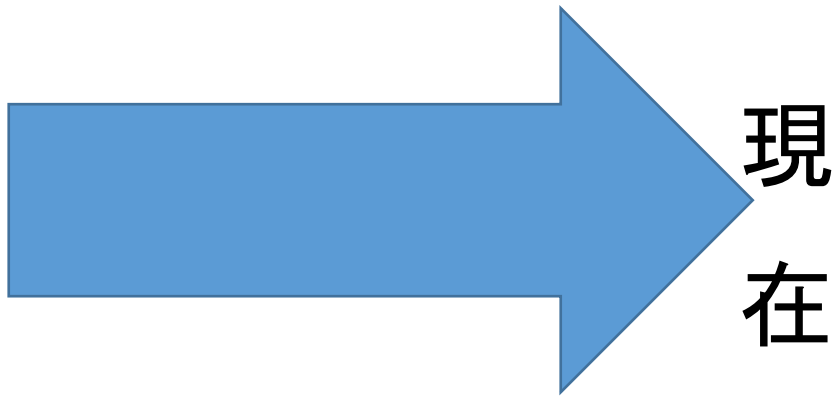
☆しかし地域福祉の主流化・政策化への危惧

- さまざまな生活問題の発生
- 政府行政ができないから地域で？
- それは地域社会・住民の手段化
- 福祉の高い質も実現しない

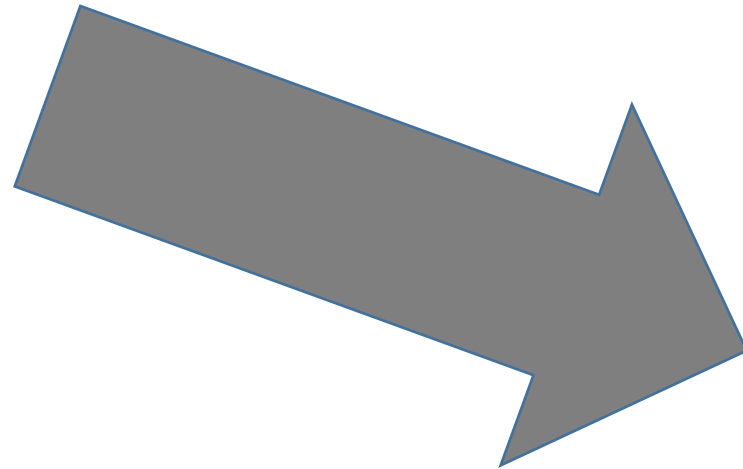
 地域福祉の隘路（先行き不安）

(地域)福祉の問い直しが必要 どうする？

2
千
年
代
の
地
域
福
祉



真の主流化
地域福祉の実現



下請け化
地域福祉の隘路

定常化 = ポスト成長
時代の福祉とは

見直し

福祉に対する考え方



変えていく

福祉はマイナスイメージ？

- 「関わりたくない福祉」
- 「避けたいものとしての福祉」
- スティグマ stigma

しかし もともと語義からすれば

福祉 = 幸福

それもとびきりの！

☆福祉観の転換へ

- 福祉＝幸福 ウェルビーイング
 - 福祉にかかわること
⇒よりよい生き方ができるようになる
⇒よりよい地域社会が生まれていく
- そうならば
- 「福祉はかかわりたくないもの」ではなく
 - 「ぜひ関わってみたいもの」に変わる

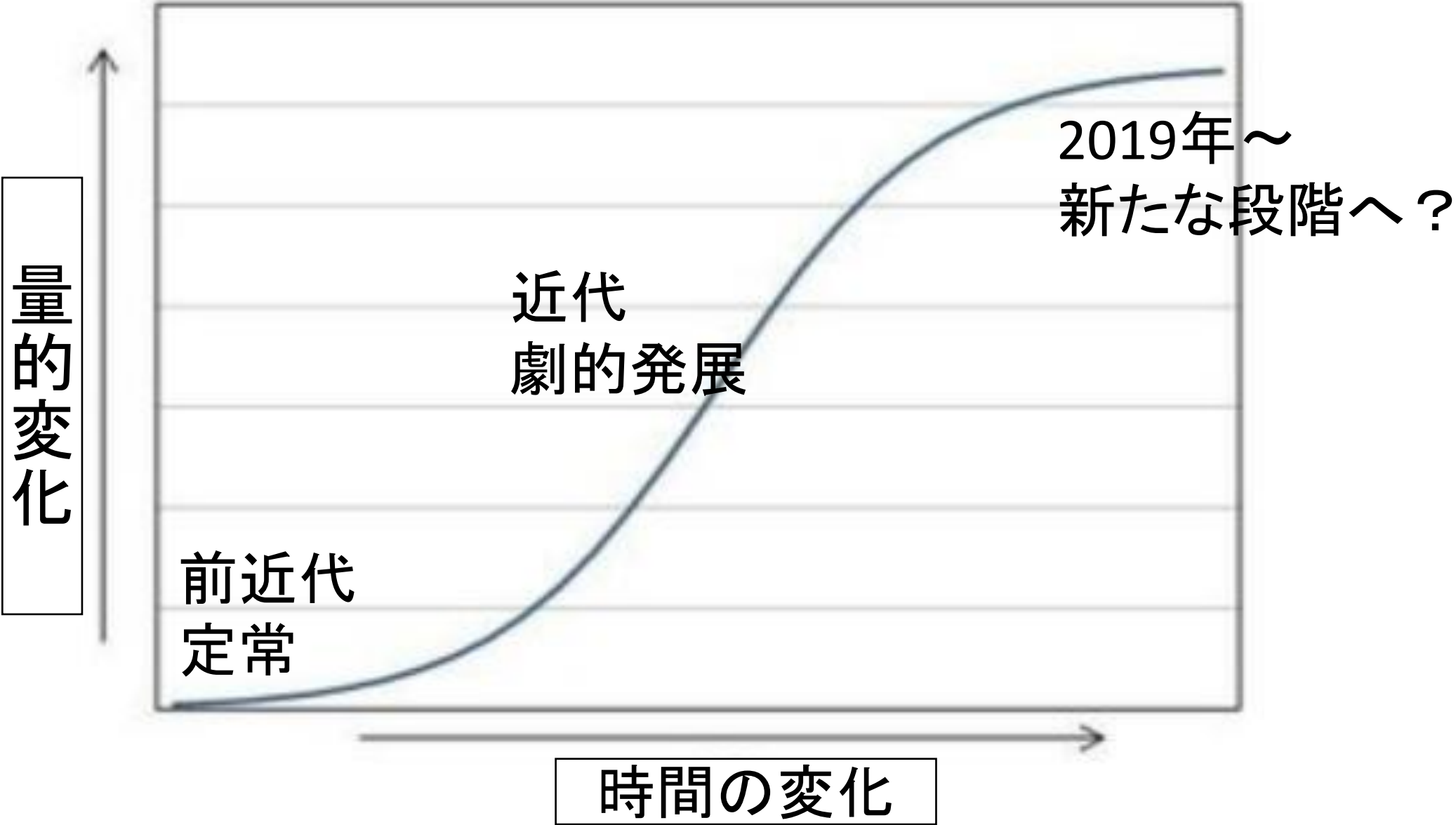
福祉は幸福を

生み出す當為

見直し 定常化＝ポスト成長という時代

- 社会の定常化、あるいはポスト成長
一定の社会的発展の上で、経済や人口が均衡する状態に向かう社会
- 日本の経済の定常化
- 日本の人口の定常化（減少？）
- プラスの側面 発展の成果

定常化＝ポスト成長社会の福祉とは？



世界基準は動き始めている

- 国連

GDPから新しい豊かさへ（幸福度）
世界幸福度ランキング

- OECD

良い生き方＝生活

How's Life? Measuring Well-being.

『OECD 幸福度白書』2011, 2013, 2015

* これからの福祉は、幸せをつくること

新しい時代の

福祉をつくる

幸せそのものを生きてよい時代になっている

- これまでの生き方は、“今”は手段であった
- 「将来豊かになるために(目的)今がんばる(手段)」
福祉は「マイナスからゼロ」でも良かった？右肩上がり
- しかし、豊かさはすでに実現してしまった

- 今が目的となる時代に入っている 現在充足性
- 幸福そのものを求めてよい時期にすでに入っている
- 価値の転換必要／一人ひとりの考え方
- 福祉が幸福をつくるべき時代

だが、確かに別の方向の危惧も多くある

- 社会的格差の拡大
- 経済的不平等化
- 社会的排除の進行
- 地域社会の荒廃、空洞化
- 環境・自然問題の深刻化
- 各種対立・軍事的紛争の危機
- 民主主義・市民社会の無力化
-

福祉の二極化を超えていく必要

幸福への関心に基づく福祉
個人の自己実現と社会の継続発展

この方法をつくっていく

幸福実現を志向する
増進型域福祉

生存が脅かされることに対する福祉
社会的排除・貧困・介護等の基本的生存保障

2

増進型福祉の 進め方

増進型地域福祉とは

- 増進型地域福祉は、地域**福祉の実現**を目指します。
- マイナスからゼロ(旧状復帰)を目指すではありません。
理想の状態(こうなったらいいなあ)を本人とともに描き出し、協働の実践によってその実現を目指します。
- その結果として、**一人ひとりの幸せと地域の幸せ**をともに生み出す福祉です。
- 増進型地域福祉に関わることによってその人の・その地域の**可能性が開きます**。

どうすればいい？① 地域福祉の特性

法律や制度
に基づく福祉



自発性
民間性
地域性
連携協同

どうすればいい② 考え方の転換

問題解決型から目的実現型へ

問題解決型

- 原因を明らかにして、それを取り除いて問題を解決する
- マイナスからゼロへ

目的実現・理想追求型

- どうなればよいかという理想を描いて、その実現を目指す
- 理想の実現へ

* まちづくり、医療、心理学、組織づくりなどの領域でも問題解決(だけ)でなく目的実現が重視されてきている。

プロジェクトとしての増進型地域福祉 イノベーション的展開のプロセス

増進型地域福祉の
創出

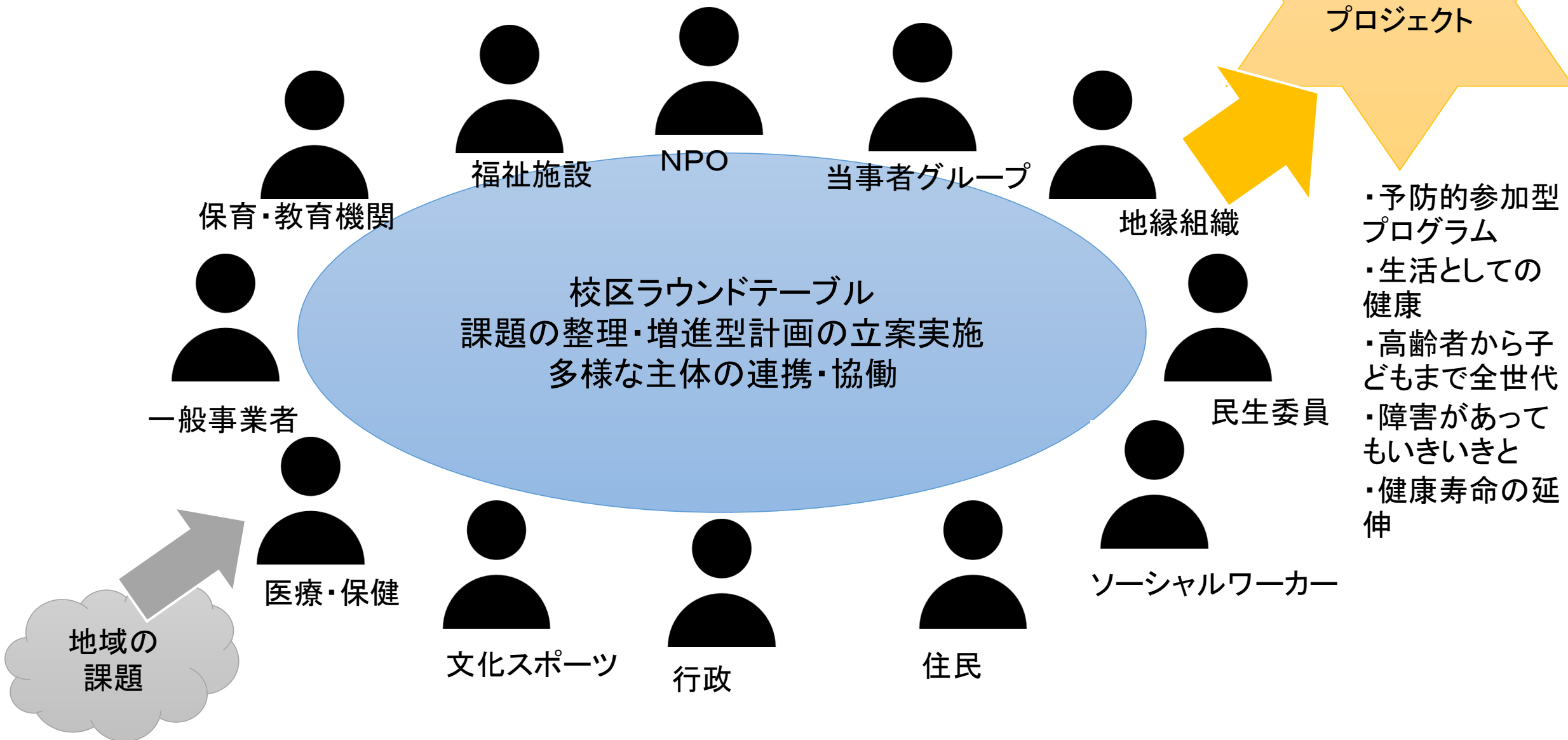
普及

課題定置
理論検討・構築

研修
試行・調整

本格実施
(モニタリング)
モデル化
一般普及

増進型の進め方(小学校区レベル)イメージ 多様な主体による対話と合意形成



対話にもとづく実践・支援

妥当要求が認められない場合

討議

【発話行為・話し合い】

当事者

妥当要求
真理
規範
誠実

住民

専門職

【合意形成】

了解

承認

合意

実行

【行為遂行】

合意に基づく行為調整

地域福祉
「実践」

<発話の支援>

<意思決定支援>

<行為支援>

ポイントは、理想を描けるか（対話と合意）

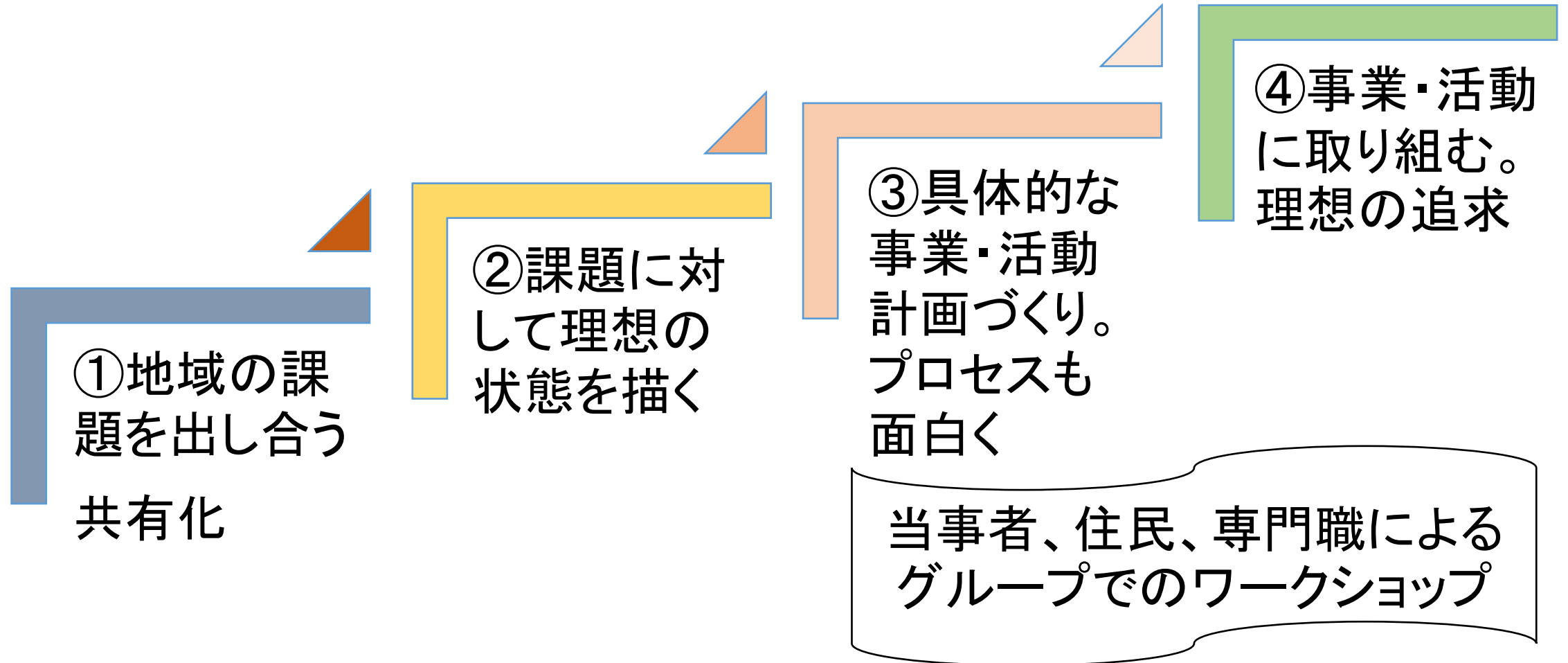
- 普段は、理想を描くことができない
- 問題解決型の発想に慣れている
- 理想を言っても仕方ない、といわれている

• 発想の転換の必要！

→ あえて、理想を描くことから始まる

- 空想と理想は違う 実現可能性があるものが理想
- 面白ければ、達成困難に思えてもやる気が出る
- まず理想を描き、次の段階でその実現方法を考える
- 理想はみんなで作成、追求するもの やってみると面白い

増進型地域福祉の段階



* 増進型追求の方法はひとつではない。様々な方法、可能性を探ること。

増進型地
域福祉へ

「理想」状態
地域福祉の実現

目的＝理想状態の追求
地域福祉とは地域での幸せ

増進型

「普通」の状態
日常の生活・地域社会

マイナスから
ゼロへ
劣等処遇？

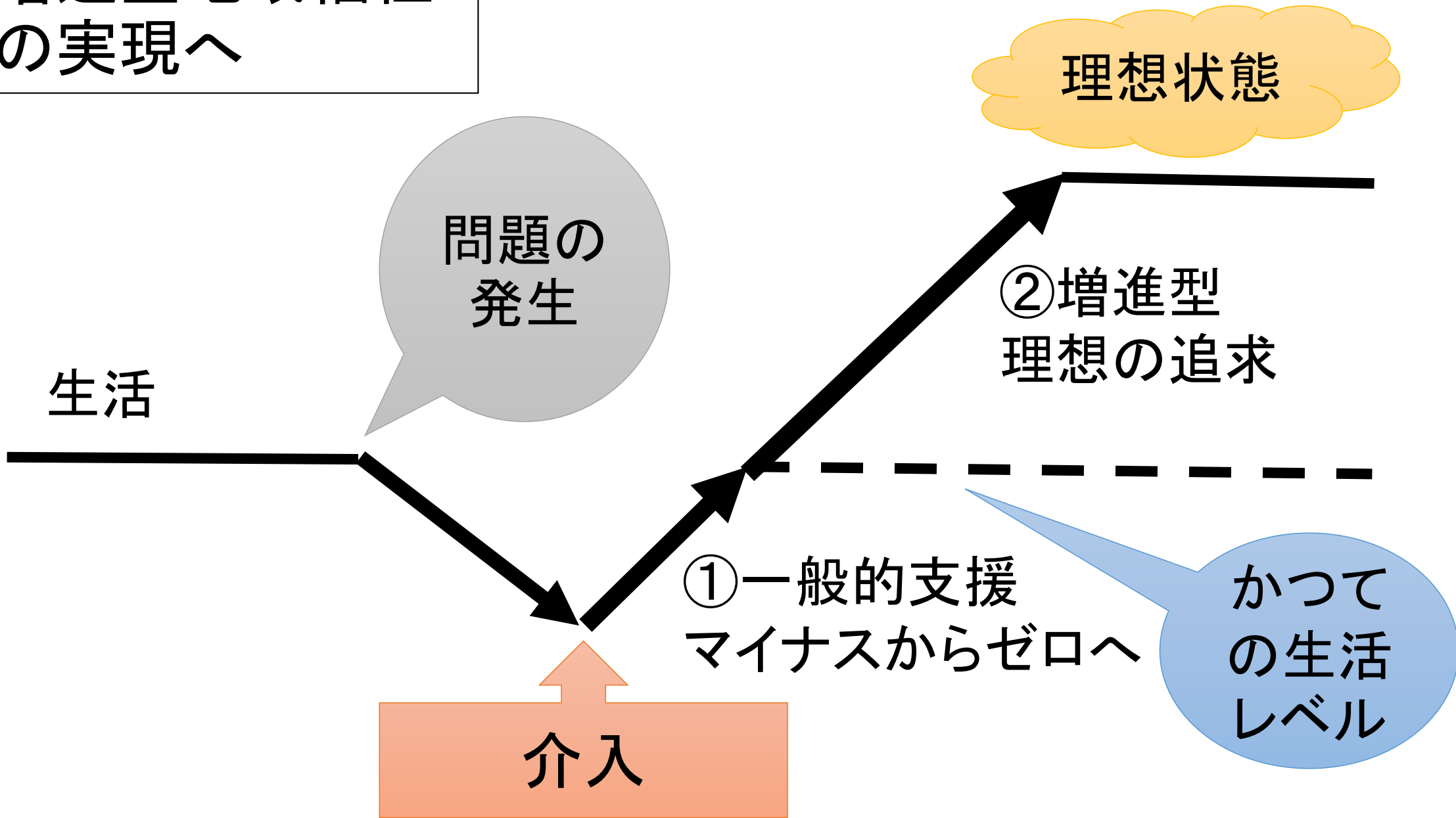
現在の
取り組みの
主流

原因究明型
問題解決

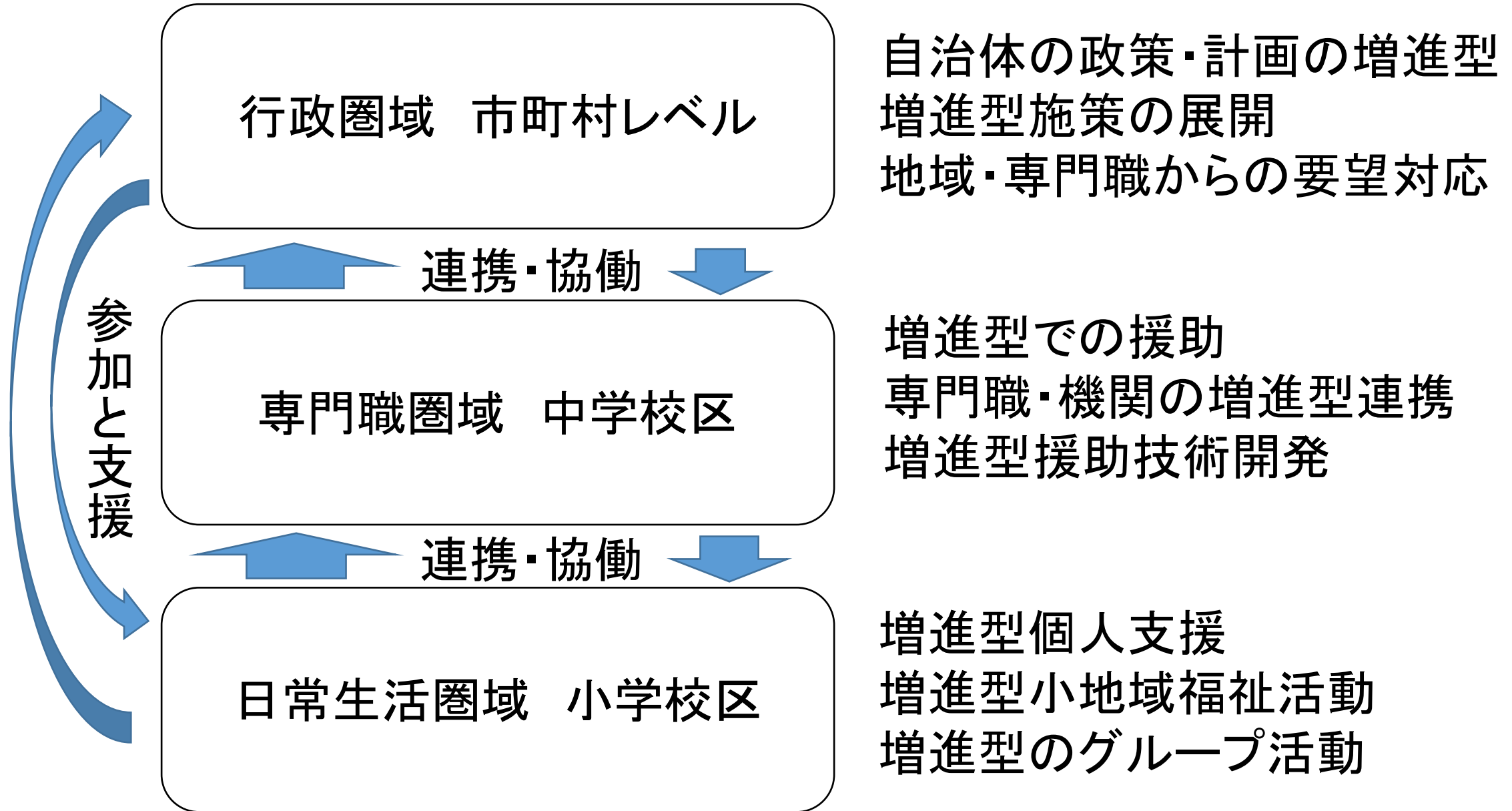
問題の発現
「普通」の状態
との差＝問題

「問題」状態
地域でのさまざまな問題

増進型地域福祉 の実現へ



増進型の3層連動モデルによる個人の幸福追求と地域社会の継続



増進型の活用の3層

マクロレベル
自治体 市町村

自治体の政策・計画
広域のネットワーク
マクロな地域福祉システム

メゾレベル
小地域 組織

コミュニティワーク
校区社協活動、まちづくり
ボランティアグループ・NPO
生活支援コーディネーター

ミクロレベル
個人支援

CSW／個人支援
生活困窮者自立支援
生活相談・貸付・権利擁護系

メゾレベルの取り組み

【啓発・理解】増進型の理解を広めることであり、講演や単発的ワークショップ（WS）である。

【影響】既存の実践を増進型へシフトしていくこと、また増進型として意味づけることである。

【開発】WSを開催し、そこで生み出した増進型のアイデアを具現化することである。

増進型のこれまでの実績（一部）

【講演】

- 大阪府、熊本県、兵庫県、和歌山県、群馬県、吹田市、福島区、和泉市、藤井寺市、姫路市、鶴見区、西成区、柏原市…

【ワークショップ】

- 広島県、宮崎県、堺市、阪南市、太良町…

【本格的、継続的な取り組み】

- 大阪狭山市、富田林市、住吉区、福岡県…

【影響】の3つの取り組み

- ①増進型を学んでその実践に意識的に取り組む
- ②増進型には懐疑的であったが、実践を進める中で変化
- ③自らの実践を検討して増進型であると意味づけ

【開発】の3つの取り組み

- ① 中学校区レベルワークショップ（WS）の後小学校区WSに落とし込み。行政から社協へ。
- ② 市の全体研修を行ない、その後小学校区WS。行政と社協。
- ③ 区レベルWSと小学校区WSの並行開催。モデル小学校区での実践化の試行。行政から／と社協。

【開発】の基本的な展開

①増進型の考え方についての講義



②増進型のワークショップ



③実践の展開

ワークショップの基本的展開

- ①グループになるー理想型アイスブレーク
- ②気になる課題の出し合い → 一つの課題に絞る
- ③課題に対する理想の姿のアイデアをたくさん出す
- ④共有して、さらにアイデアを出し合う
- ⑤理想のアイデアをひとつに絞る
- ⑥理想の実現方法を考える
- ⑦理想という目的を実現する図を作成する 目的関連図
- ⑧みんなで共有化
- ⑨実践へ

理想の場面のアイデア出し 例

【課題】母子家庭で、家計にゆとりがない小学校低学年の子どもで夜に母親が帰ってくるまで一人で過ごしている

①近所の人の家で親が帰ってくるまで楽しく過ごしている。

②テレビ電話で、親といつでも話すことができ安心できる。

③地域で、お買い物プログラムをつくり、みんなで晩御飯の買出しに行く。

④「お風呂に行こう」。近くの家でお風呂を開放してもらう。

⑤勉強、遊び、趣味などの相手を紹介する仕組みが整っている。

⑥巡回型のBBS活動を展開する。(BBSは、大学生などが子どものお兄さん、お姉さん役になる活動)

⑦放課後活動として、近所の高齢者施設を訪問し交流して、帰りは送ってもらう。

⑧友達と一緒にご飯をつくり、みんなで食べる。

⑨家庭文庫をたくさん作り、読み聞かせ活動に参加する。

⑩地域共同の家を作る。昼は、共生型サロン、夜はみんなの交流拠点。

◆グループ名：おとひめクラブ

◆想定する対象

- ・ 小学校低学年の子ども
- ・ 母子家庭で親が夜遅くまで働いている
- ・ 夜学童保育から帰ってきてから一人で過ごしている
- ・ 家計はゆとりがない、比較的厳しい状態

子どもの健康で、豊かな発育

上位目的

理想の場面

夜ご飯を他の子どもたちと一緒につくって、おいしく、楽しく食べている
(近所のどこかで、大人数で、みんなで作って)

実現条件

送迎

一緒に作ってくれる大人
(近所の人・地域の一人暮らしの人)

キッチン・大きい部屋があった場所の確保

場所代等のお金の確保

食糧確保 (フードバンクから・農家から)

広報・口コミによる参加者確保

団体としての成立・継続性・定期的な開催

親の理解

近所(地域)の理解

運営者の育成・募集

増進型の実践展開の現状と課題（メゾレベル）

- 増進型の実践展開は緒に就いた段階である。
- 【啓発・理解】は、社会的関心を広めるだけにとどまらず、いかに実践につなげるかが課題である。
- 【影響】は、既存の実践があり、具体的な内容が分かりやすい。ただし、そのプロセスは必ずしも増進型を踏襲しているわけではない。実践の結果と経過の関係を考察する必要がある。
- 【開発】では、住民中心でも事業活動の構想までは進むことができるが、そこから実践までは別段階になることがわかった。WSの参加者と実践の担い手が同じか異なるかは重要である。
- 以上のような知見を増していくことが、実践展開のための当面のタスクである。→さらに、ミクロ・マクロレベルの実践開発

福祉＝幸せのつくり方の転換

- これまで

幸せは、それぞれが追求するもの
個人ががんばって手に入れる(個人主義的アプローチ)

- これから

幸せは、みんなで作るもの(きょうどうのアプローチ)
成功すれば、その人だけでなく地域が幸せになる
→地域での実践の重要性

*** 地に足をつけた幸せをつくることが増進型**

最も可能性にあふれるこの30年

- 現在は、人類が望んできた時機？！
- それは長くて30年－短くなる懸念もある
- 30年後に実現するのではなく、いま、ここから始まる
⇒ 現在充足性／いま幸せになること
- 問題解決に追われるか（それでは格差の拡大）
- 真摯に幸福を生み出すことに向き合うか
- 幸福を生み出していければ、次の可能性が開かれる



おわり

福祉を増進型へ

増進型福祉セミナー2 2019年3月23日

再び ゴーシニスト増進大作戦

- 「ゴーシニスト」とは、増進型福祉に関心がある人。やってみたい人。広めていきたいと考えている人のこと。
- そんなゴーシニストが、最初10人いて、その人たちが1年に1人ずつゴーシニストを増やし、その増えた人がまた1年に一人ずつゴーシニストを増やしていくと・・・
- 10人→20人→40人→80人→160人→320人→640人→1280人→2560人→(10年)5120人→10240人→20480人→40960人→81920人→163840人→327680人→655360人→1310720人→2621440人→(20年)5242880人→10485760人→20972520人→41943040人→83886080人→167772160人→335544320人→671088640人→1342177280人→2684354560人→(30年)5368709120人→100億人超！！